伊能忠敬（いのうただたか）は、50歳を過ぎてから、日本全国を測量して歩き、わが国最初の実測日本地図をつくりあげた人物です。

記念館では、忠敬の人生を年代順に追い、その業績の結晶である伊能図をあますことなく紹介いたします。

伊能忠敬年譜

西暦	年齢	経歴
1745		上総国山辺郡小関村（現在の九十九里町）に生まれる。
1762	17	佐原の伊能家の婿養子になる。
1781	36	名主拝命。
1794	49	隠居する。
1795	50	江戸深川黒江町に住み、天文方高橋至時（よしとき）に入門する。
1800	55	第1次測量（東北・北海道南部）
1801	56	第2次測量（関東・東北東部）
1802	57	第3次測量（東北西部）
1803	58	第4次測量（東海・北陸）
1804	59	正式に幕府に登用される。
1805～6	60～61	第5次測量（畿内・中国）
1808～9	63～64	第6次測量（四国）
1809～11	64～66	第7次測量（九州1次）
1811～14	66～69	第8次測量（九州2次）
1815～16	70～71	第9次測量（伊豆諸島、忠敬は不参加）
1816	71	第10次測量（江戸）
1818	73	江戸八丁堀亀島町宅で没。浅草（現在の東上野）の源空寺に埋葬される。
1821		大日本沿海輿地（よち）全図完成

佐原時代
伊能忠敬 50歳までの前半生を紹介

忠敬は、50歳で江戸へ出るまで佐原の名主・村方後見を務め、家業では酒造業等を営んでいました。34歳の時松島への旅行では神社仏閣を訪ねる旅でしたが、48歳の時伊勢神宮への旅の途中には、緯度・方位観測を行っており、このころから天文や暦学への興味をいだいておりました。

全国測量へ
隠居してからの勉学と全国測量の行程を紹介

江戸で、天文方高橋至時の弟子になり勉強を本格的に始めます。55歳で北海道南岸の測量を行い、以後計10回に及ぶ日本全国の測量を71歳まで行いました。忠敬は73歳で亡くなりますが、彼の没後3年にして日本全図は完成しました。

大日本沿海輿地全図
（東京国立博物館蔵）

伊能図の完成　伊能図の数々を紹介

伊能図には、1821年完成の「大日本沿海輿地全図」（大図214枚縮尺1／36,000、中図8枚同1／216,000、小図3枚同1／432,000）のほか、測量ごとに作った地図や名勝地を描いたものなど、多くの種類があります。いずれの地図も実際に測量してつくられたので、とても正確であるとともに、芸術的な美しさを備えています。ガラスケースの中には、香取市が所有する伊能図や測量器具等（「国宝」）を展示しています。（2ヵ月毎に展示替えを行っています）

地図の世界
日本地図の歴史や、楽しい世界の地図を紹介

伊能忠敬がつくった伊能図により日本の正確な姿が紹介された19世紀以前において、ヨーロッパの人々は日本の姿をどのように理解していたのでしょうか。ヨーロッパから見れば極東の地である日本については、さまざまな憶測やとぼしい地理的情報に基づいて描いていました。また同時に日本人は自分の国の姿をどのように理解していたのでしょうか。地図はその時の時代観、宗教観、目的によってさまざまな形をとります。見ても楽しく興味深いものです。